

別府大学付属博物館の建物と施設

橘 昌 信

1 はじめに

別府大学では博物館担当施設として、昭和27年別府市六勝園に「別府大学付属上代文化博物館」が設置された。その後、土地の問題などで移転を余義なくされ、考古資料を中心とする博物館資料は別府大学構内に移され、考古学研究室で収蔵された。さらにその一部の資料は研究室の二部屋において仮の展示が行なわれ、細々ではあったがその機能をはたして今日に至っていた。

昭和52年5月、別府大学では大学創立30周年の記念行事の一環として「30周年記念館」が竣工され、これを機会に名称も「別府大学付属博物館」と新たに、大学における教育・研究の機関として、また地域社会の生涯教育の一部を担う施設として再開館したのである。以下、付属博物館の建物と各室、それに設備について概観することにした。

2 建物と各室

別府大学付属博物館は大学構内の一角に位置し鉄筋コンクリート造りの地上4階建ての建物で、長さ21m、幅13.5mの長方形を呈しており、延床面積は1034m²である。東を向く正面は1～3階までカーテンウォールが用いられ、4階展示場の白い外壁とマッチして現代的な感覚にあふれている。建物の入口は東北にあり、そのまゝ各階への階段が設けられている。このメインの昇降とは別に西南隅に中央吹き抜けの屋外の階段が設置され、非常時の昇降も兼ねてこの建物の機能化を図っている。

建物の床はビニール系タイル貼りとロンリウムを基本とし、第1・2収蔵室は木造下地にモザイクのパケット貼りを施している。腰壁は1～3階にかけてモルタルにゾラコート吹付けを行っており、収蔵室は素地のまゝの杉板を使用して部屋の温湿度変化の緩和を図っている。なお4階展示室については木造下地にベニヤ板、さらに淡いグレーのクロス貼りによって仕上げられている。最後に天井であるが、各階ともジョイント石膏ボードを下地に、ジプトンボード、ビニールのクロス貼りなどを部屋の用途によって使い分けている。収蔵室は杉の打ち上げ天井であり、展示室の方は腰壁と同様のクロス貼りを行っている。なお、展示室の天井には屋上トッライト（ポリドーム角型）を4ヶ所に設置している。天井の高さは各室によって多少異なるがほぼ2.7m～3.0mで、展示室のみケースの大きさを考慮して4.0mと特別高くしている。

1階 大半が保存科学実習室で占められており、学芸員課程での必修科目である「博物館実習」の場にあてられている。考古・民俗関係の実習が主として行なわれる他、考古学研究室での発掘調査の資料整理室としても活用され、これらの事を考えて西壁に沿って水道および流し台を備えている。実習室の隣りは資料の一時保管を兼ねた荷解室で、北側に資料搬入・搬出のための入口が設けられている。これらの二室に近い場所には燻蒸室およびその前室が位置している。一方、南側には学芸員研究室と暗室があり、特に暗室は写真作業を行なっ

ていない時は製図などの作業に利用できるような他の部屋と同じ広さを確保している。管理室は玄関の横で、受付を兼ねている。

2階 床面を傾斜させた構堂のみで、117名分の机・椅子が固定されている。学芸員課程の講義をはじめ、講演、研究発表などの使用を目的としており、黒板、2.4×1.8mの巻上スクリーン、それに放送設備を設置している。

3階 南側は館長室と文献関係の資料室である。中央は40名前後の収容が可能でかつ多目的な使用を考えた演習室であり、その北側は古文書室と第1収蔵室が東西にならんでいる。古文書室は史料の整理と収蔵を目的としている事もあって空調設備が準備されている。一方の第1収蔵室は写真および図面などのいわゆる記録資料と材質その他の関係から保管に特別留意すべき実物資料の収蔵にあてられている。そのため空調設備は無論の事、先に述べた様に部屋全体に板材を用いて室内の条件緩和を図っている。

4階 博物館の顔とも言うべき展示室によって大半は占められており、窓は一切なく自然採光は天井に設けられたトップライトのみである。展示室は123.6m²の広さをもつ長方形の一室のみで建物全体の延床面積からするとその占める割合は小さいが、これは本学の付属博物館が調査・研究に主体を置いた「実習博物館」とも言うべき特色に起因するためである。展示室にそれぞれ隣接して前室と準備室が設けられている。第2収蔵室は準備室に直結しており、展示のために用意された資料の収蔵が行なわれ、第1収蔵室と同様な作りであり空調設備も設置している。4階から屋上へ通じる一室は展示用の資料台・パネル、梱包用の資材、それに考古資料の一部が収納されている。なお資料の収蔵室は別棟に設けている。

3 設 備

空調設備 本館の空調は空気熱源ヒートポンプ方式によるもので、展示室、第1・2収蔵室、古文書室に設けており、屋上に空冷ヒートポンプ1基、冷温水循環ポンプ1台それに膨張水槽が設置されている。チラー操作盤は管理室に置かれ、各室はファンコイルユニットによって操作される。

リフト 建物の北西に積載量300kgの資料用リフト1基を備え、3階の第1収蔵室、4階の準備室に通じている。

電気設備 大学構内の二次変電室から配電され1階管理室に引込開閉器を設けている。電話は20回線施設しており、館内放送設備は1階・2階に放送装置、さらに各階の主要な部屋には音響装置が設けられている。

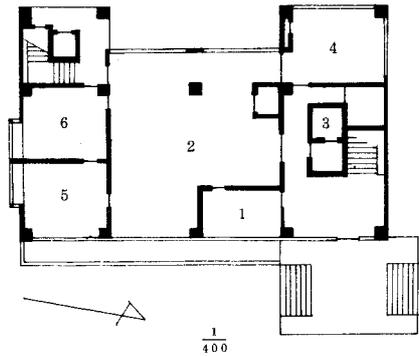
防災設備 各階に自動火災報知設備、煙感知器、防災発信器、それに自動防火ドアを設置し、その他、避難口誘導灯、通路誘導灯を設けている。

給水設備 重力給水方式を採用しており、屋上に2トンの高架水槽1基を設置している。

4 おわりに

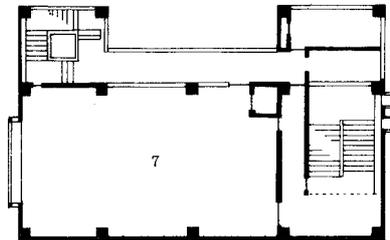
本館の概要については以上であり、広さにおいて必ずしも満足すべきものではないかも知れないが、博物館に要求されている博物館資料の収集・整理保管・展示それに調査研究など一連の諸目的を達成するために必要なスペースが確保されているものと考えられる。特に博物館実習を含む調査研究に主体を置き、その充実を目標とした施設と言えよう。

今後は、博物館課程や展示、調査研究活動などの上で、必要な設備機器類の充実を図る必要がある。



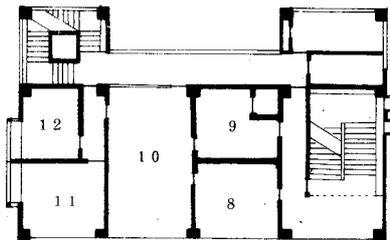
1 F

1	管理室	14.28 m^2
2	保存科学実習室	92.84 m^2
3	燻蒸室・前室 くんじょう	8.20 m^2
4	荷解室・一時保管室	27.00 m^2
5	学芸員研究室	22.5 m^2
6	暗室・整図室	22.5 m^2



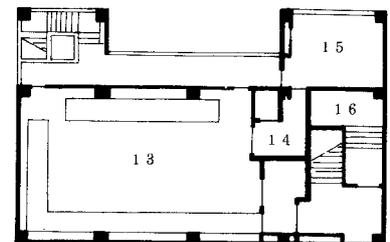
2 F

7	講堂 (117名)	123.60 m^2
---	-----------	--------------



3 F

8	古文書室	22.50 m^2
9	第1収蔵室	19.62 m^2
10	演習室	45.00 m^2
11	館長室	22.50 m^2
12	文献資料室	15.75 m^2



4 F

13	展示室・前室	136.60 m^2
14	準備室	9.92 m^2
15	第2収蔵室	27.00 m^2
16	倉庫	17.67 m^2

建物の概要

場所 別府市北石垣82 別府大学構内
 面積 延床面積1,034 m^2
 構造 鉄筋コンクリート 地上4階建
 工期 起工51年9月20日
 竣工 竣工52年5月19日
 設計 江村建築設計事務所
 施工 東洋建設

設備の概要

空気調和設備 空気熱源ヒートポンプ方式
 電気設備 構内二次変電室、電話20回線
 館内放送設備
 防災設備 自動火災警報設備、自動防火ドア
 リフト 荷物用(積載量300kg)
 給水設備 重力給水方式、高架水槽(2トン)